

昭和55年

青年海外協力隊の募集

協力隊はアジア・アフリカ・中近東・中南米・南太平洋の開発途上にある国々に対して、経済・社会の発展のために技能を身につけた、心身ともに健全な日本の青年を派遣して、各国の国づくりに協力しています。次のとおり募集しています。

○資格

満20歳以上、原則として35歳までの日本の青年男女。

○願書締切 昭和55年11月30日まで

○送付先 国際協力事業団、青年海外協力隊事務局

(〒150) 東京都渋谷区広尾 4-2-24

○試験

・第1次(筆記・作文・英語・技術)

昭和56年1月11日(日)県で実施。

・第2次(面接・個人・技術・英会話)

2月12日(木)~18日(水)の1日東京で実施。

○派遣前訓練

4か月間…勤務先での身分措置・技術研修等により1次隊・2次隊に分かれます。

・1次隊…4月1日訓練開始~7月下旬出発予定。

・2次隊…6月10日訓練開始~10月上旬出発予定。

○派遣期間…2年間

詳しくは、市福祉事務所社会係へお問い合わせください。

☎2-2111内線 271

昭和55年度

青色申告者の決算及び年末調整説明会

次の日程で青色申告者の決算及び年末調整説明会を行いますので、お気軽におでかけください。

▶対象地区…深川

○日時 12月2日(火) 10:00~12:00

○場所 長門市役所会議室

▶対象地区…仙崎・通

○日時 12月3日(水) 10:00~12:00

○場所 仙崎公民館

▶対象地区…俵山

○日時 12月3日(水) 14:00~16:00

○場所 俵山温泉閣

同和問題に関する

調査結果の報告 (2)

昭和55年3月に実施した「同和問題に関する調査」の結果について、前号で第1回を紹介し、同和問題とはどんなことか、その本質にもふれましたが、今回は

「あなたは、部落は、どうしてつくられたと思われませんか」の質問に対する解答について報告させていただきます。

【回答】

イ、歴史の発展の中で、権力者によってつくられた。 42.2%

ロ、日本民族と異つた先祖によってつくられた。 8.4%

ハ、社会の落伍者や、貧しい人々によってつくられた。 4.7%

ニ、人々が嫌がつてやらない仕事をする人たちによってつくられた。 17.2%

ホ、わからない。 23.1%

ヘ、回答なし。 4.4%

部落は、「歴史の発展の中で権力者によってつくられた」ものですが、その回答率は42.2%でした。この率は、神戸市における昭和53年の調査結果42.7%に近いものですが、部落の起源について市民の理解は十分とはいえないようです。

そこで、「部落の起源」について、次に述べてみたいと思います。

つくられた 部落差別

今日の同和問題にかかわりをもつ部落の起源について、人種的起源説、職業的起源説、宗教的起源説などがありますが、これらは、いずれも、根拠のない誤つた考え方です。

同対審答申には、「同和地区の住民は、異人種でも異民族でもなく、疑いもなく日本民族、日本国民である。」と述べられています。

部落は、江戸時代の初めごろ、封建社会のしくみの中で政治的につくられた身分制度によってできたものです。

この身分制度は、武士が、支配者の地位を安定させ、長続きさせるために、士と農・工・商および部落の人々の上下の身分をつくり、身分を固定し、住むところや服装を制限するとともに、職業の自由を奪うも

のでした。これは、支配される者が、団結して武士に反抗しないように、それぞれの身分の人々が互いに対立し合うようにすることにわらいがあつたのです。

武士の生活を支えたものは、農民の納める年貢でした。そのために、農民を武士に次ぐ身分にして、「生かきぬように、殺さぬように」という考え方で支配し、重い年貢を負担させ、不自由で、苦しい生活をおしつけたのでした。

このことからくる武士に対する農民の不満をそらすために、農民より低い身分をつくり、「上みてくらすな、下みてくらせ」というあきらめと忍従の生き方を徹底させました。

農民や町人(工・商)より低い身分とされて、きびしく差別されたのが、部落の人々でした。

たとえば、農民より条件の悪い場所に居住させられたり、職業上からも人のいやがる仕事をおしつけられました。また、役人の手さきとして、町の治安維持にあたりさせたり、百姓一きなどにかり出して、町人や農民と対立させ、その憎しみをかうようにさせられました。

江戸時代の中ごろから、幕府や藩は、財政難におちいりましたので、農民のおさめる年貢を重くしました。重い年貢をおさめることのできない農民は、やむを得ず百姓一きを起すこともありました。

こうした農民の動きをおさえるとともに秩序のゆるみをひきしめるために、幕府や藩は、身分による差別をいちだんと強めました。なかでも部落の人々は、たびたびのおふれ書きなどによって、職業、住居、婚姻、交際、服装等にいたるまでの、社会生活のあらゆる面できびしい差別扱いを生み偏見となつて長く差別を残すことになりました。

今回は「部落差別があることを、誰から聞かれましたか」について掲載します。

長門市教育委員会

昭和55年度

同和対策推進強調旬間標語

みんなの社会

みんなが作る

部落差別のない社会

◎家庭から出るゴミは

ルールを守つて出しましょう

・ゴミは 正しく分別してください。

・ゴミは 決められた日の朝に出してください。